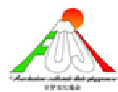


イタリア・オーメ市調査報告書の概要

調査依頼先



日伊文化協会ふじ会

青梅市

(本概要は同調査報告書の要点等の一部を掲載したほか、青梅市にて撮影した写真を掲載するなどの編集を加えています)

イタリア・オーメ市調査報告書の概要

・調査項目

- 1 地理、河川、都市形態（観光地）
- 2 気候
- 3 人口、市民の年齢構成、主な世帯構成
- 4 性格
- 5 習慣（地域固有の文化的慣習、食事スタイルなど）
- 6 住宅様式
- 7 学校の種類、教育において大切にしていること
- 8 歴史と歴史的人物
- 9 文化、スポーツ、宗教（著名人）
- 10 主要な産業、商業、工業、農業、林業など
- 11 温暖化対策など環境保護への考え
- 12 主要なイベント
- 13 政治的安定性
- 14 オーメ市が力を入れている政策・取り組み
- 15 他地域との交流実績（国内含む）
- 16 市内交通状況、宿泊施設
- 17 オーメ市と近隣都市間の交通・鉄道状況
- 18 オーメ市と国際空港間の交通・鉄道状況

1 地理、河川、都市形態（観光地）

○海拔240mのフランチャコルタという名称地域の北東部に位置

○緑と森、アルプス山脈の中心で南部の中程度の高さの山や、葡萄、オリーブの畑に囲まれた自然豊かな丘陵地

○面積は9.9キロ平方メートルで、中心からほど近い地域に多くの集落がある（面積は羽村市とほぼ同じ）

○観光地として魅力的な場所は複数あり、丘や公園などの自然エリアと、色々な時代のモニュメントがある

○大きな産業地域は存在しないが、郊外にいくつか産業地域がある

オーメ市広景



2 気候

○アルプスの麓にあり、一年を通して過ごしやすい気候

四季の移り変わりは、はっきりとした変化がある

ここ数年では夏はとても気温が高くなり、冬は最低気温がマイナス0度を下回る
夏場の平均気温は15～20度ではあるが、最高気温が30度程になることもある
(緯度は北海道北部とほぼ同じ)

○温暖化現象の影響で、夏の気温上昇、冬の気温低下がある。

その他、集中豪雨や、夏場の霰(あられ)の原因となる気温の急激な上昇や急降下
といった、異常気象の頻度が高まっている。

○冬季には丘が雪に覆われることもあり、夏には木の幹に留まる蝉の声がミンミンと鳴り響くような特徴ある気候の移り変わりがある。

3 人口

○人口は現在、3,150人で、住民の年齢別内訳は次のとおり。

0－19歳	550人
20－35歳	475人
36－50歳	629人
51－75歳	1,147人
76－101歳	349人

ここ50年の人口推移は、わずかずつではあるが増加傾向にあったが、ここ10年ほどで減少した。

平均寿命は延び続けている。



オーメ市広景

4 住民の特徴

○住民は、他者を歓迎し受け入れる温かさを持ち、仲間との結束力が強く、アイデンティティーが確立している傾向がみられる。

○過去の歴史にしっかりと根を張った豊かな伝統を大切にしている。

○暮らしている地域、土地に深い愛着・絆を感じ、自然、生活サイクル、敬虔で篤い信仰心に強く結びついた文化を大切に守り続けている。

○宗教的な祭りや、文化イベント、街の祝い事などには、多くの市民が参加

○災害時や緊急時、また国のみならず、世界的にひっ迫した状況には、オーメ市民は団結して組織を編成し、必要とされる場所へ力を合わせて向かう協力的な体制を組む



令和5年11月 アルベルト市長一行の来青時
イタリア国旗の襷をにかけているのがアルベルト市長
その右隣が小山副市長

5 風習、伝統、祭り、イベント、地元ならではの慣習

○クリスマスシーズンには、クリスマス・マーケットが開催される。

アーティストや、手工業職人たちの参加によって、市民のみならず、ブレーシャからの訪問客や、他の地域からも参加者が集う有名なイベントとなっている

クリスマスマーケット



○この地域の大多数に支持されるキリスト教に結び付いた、静かに瞑想に耽りじっくり思いを巡らす行事がある。

パスクワという復活祭の前に執り行われる、四旬節(しじゅんせつ・復活祭前40日)の金曜日は、十字架巡礼と呼ばれる、教区練り歩きによって執り行われる十字架キリスト復活祭がある。

十字架巡礼



四旬節の間、金曜日には、肉料理は食べない習慣になっている。

※復活祭 春分の日から数えて最初の満月の次の日曜日

5 風習、伝統、祭り、イベント、地元ならではの慣習

○食卓にはワインが欠かせない

オーメ市もワイン畑に囲まれており、美味しくて素晴らしいワインが生産されている。

各家庭では、特別なシーンで開けるワインは必ず別に保管しており、食事には自家製のワインを合わせる習慣がある。

○家庭料理：ポレンタ(トウモロコシの粉を粥状に煮たもの)

郷土料理：カゾンチェッリ(詰め物の生パスタ)

大切な機会やイベントの際にはジャガイモと肉の串焼きが食される

○オーメ市民はとても人懐こく、社会性に富んでいる。

また、知人同士であれば近づいて抱擁し挨拶する。これは誠実な愛情表現であり、周囲の人々に対するオープンマインドの振る舞いである。



串焼き

6 居住地域

歴史的な中心地区

○街のエンブレムともいえるのが、オーメ市のボルゴ・デル・マツリオ(マツリオ集落)で、その中には、歴史的文化的な価値ある建造物があり、6世紀が過ぎた今も、そのままの形を残している。

○一般的な住居は複数の部屋があり、キッチンと居間、複数の部屋とトイレがある。

しかし現代では住居の家の面積は小さくなっている。そしてまた、家族の人数もかつてのようには大人数ではない。

○土地の広い邸宅(200～400平米)がいくつかあるが、大多数の家族層は70～100平米ほどの集合住宅に住む。古い家を取り壊すか、またはリノベーションでモダンな家が建つこともある。

○オーメ市の名前の由来を紐解くと、“オーメ”という言葉の表現で信頼性のある訳の一つに、“石造りの家”という意味がある。



7 学校の種類と、重要視されている教育施設

オーメ市立図書館

○イタリアでは義務教育は6歳から16歳

小学校 6歳から10歳

中学校 11歳から14歳

または第2番目の初等教育機関という学校に通う

○学生たちはブレシャの街へ移動し、高等教育を受ける。
(高校、または専門学校)。

もしくは、オーメ市内にある職業訓練校に通う。

○子供たち、青年たちの教育にはもちろん、学校が重要な役割を果たすのは言うまでもなく、そこには家庭、教会、社会コミュニティのサポートがあり、すべての協力のもとで成り立っている。

○学校では基礎的な教科の授業(国語イタリア語、数学、外国語など)はもちろん、道徳や生命、環境への敬意、社会性、創造性、友情、コミュニケーション能力、共生などについても学ぶ。

また、倫理・道徳、寛容・許容、気高さ・優雅さ・優しさ、団結など、日常生活の中で、家庭や教会で教えられていることも重要な要素であると考える。



8 史実と歴史的人物

モルティ教会

○オーメ市はHomisという市名で1274年に正式登録されており、すでに古代ローマ時代や青銅時代にもこの地域には人間の定住が始まっていた。

○いくつかの古代住居に装飾されたフレスコ画からも、中世の時代にオーメ市は交易に欠かせない通行の要所地であったことがうかがえる。

○1426年から1797年までヴェネツィア共和国に統治された。

当時、農業を主とした経済状況は劣悪だったが、16世紀以降は養蚕業と、水力駆動(水車)のハンマー(による鍛造)の発達によって市民の生活レベルが向上していった

○歴史的人物

・牧師ピエトロ・バットラ 1692年彼の遺言状により財産が市に寄付され、その用途は主に、貧困層の子供たちの為の学校建設であった。

・オーメ出身のトマーゾ・ボンゲッティ(1750~1823) は熱心で学識のあるカプチーノ会修道士で、上品で誠実な詩人、控えめな哲学者、フランス革命思想の悪用に対する厳格な批評家であり、社会福祉としての学校建設の必要性を訴える粘り強い擁護者でもあった。



9 文化、スポーツ、宗教 — 著名人

○1989年に誕生した児童音楽アカデミーがあり、研究所を通じて音楽文化を広めることを目的としている

○スポーツでは、人気があるのはサッカーである。続いて、バスケットボール、器械体操、バレーボール、水泳である。市内には、サッカー競技場が6か所、体育館が1か所、小さなスポーツジムが1つある。

○一番支持されている宗教は、その歴史的文化的背景からもキリスト教・カトリックである。

○著名人

- ・ジュゼッペ・ベルゴミ(1953年～) 画家、彫刻家 彼のブロンズ像の代表作である、「人・建築・イルカ」が名古屋水族館に収められている。
- ・レナート・ボンジョルニ(1941～)、エルネスト・ボーノ(1936～) 自転車ロードサイクル
- ・ダニエレ・ボネーラ(1981～) サッカー (ブレシア-パルマ-ACミラン、現在はACミラン下部組織の監督)

名古屋水族館正面



10 主要ビジネス：商業、工業、農業、造林業 等

フランチャコルタ

○市内で活動する小規模産業は多く存在する。

○代表的なのは、設備規模が最大のモーレマブ(MoleMab)社
(研磨ディスク、ダイヤモンド加工具等)

○観光業では農業体験と宿泊をパッケージしたアグリツーリズムを行う企業が多い

○有名なワイン「フランチャコルタ」の製造はこの土地にとって、またオーメの経済にとっても、重要なリソースである。



○市内の商店の数が少ないのは購買傾向が時代と共に大きく変化したためである。近年では、物流が市民の目を惹く大きなショッピングセンターへと流れる傾向がある

○小規模店舗とは異なる流通ルートに注目すると、商業活動は外国への輸出、ネット販売が大成長しており、ネットショッピングはオーメ市民の購買意欲を高め満足感を与えている。

○オーメ市には古くからの温泉浴場が存在し、公衆浴場に新たな技術を加えた施設は一時期繁盛していたが、現在は経済的な理由で営業していないのが現状である。

11 環境保護への取り組みと、地球温暖化対策

○オーメ市は、持続可能な農村開発の政策によって、ロンバルディア州全体の中でスピーゲ・ヴェルディ賞を受賞した2都市のうちの1都市に選ばれた。

(Spighe Verdiこの直訳は、緑の穂という意味)

受賞に至った活動例

- 市民と協力して行う地域清掃活動NetOmelプロジェクト
- 新しい土壌に関する国内計画のもと、土壌の消耗を抑制した環境保護
- 森林、エコ農場エリア、保護観察区域、獣道などの保護エリアを決める
- 公共エコロジー・ネットワークの設置
- 公共緑地の保護、公共の場の設備(備品)の再整備と管理
- 環境へ最大に配慮した、サステナブルな生活スタイルの促進活動
- 使い捨てプラスチックの使用放棄
- 公共施設のエネルギー効率強化
- “ハチとの共生”システムへの参加、長期プロジェクト

特に州教育機関(Istituto Comprensivo)との重要テーマへの協力体制

- 廃棄物の違法投棄に関して、世論を喚起する為のNetOmel(地域清掃活動)プロジェクトの拡大



植物園

12 主要行事

○年間を通してオーメ市の劇場でフェスティバルや音楽祭が開催される。

○音楽はオーメ市の生活に欠かせない文化的要素である。一年を通して、ロックからコーラス、オーケストラのクラシック演奏からソリスト歌手のリサイタルに至るまで、夏のフェスティバルを含め、様々なコンサートが開催される。

○9月には、イタリア全国から多くの人々が訪れるフランチャコルタ・フェスティバルが開催され、オーメ市も参加している。これはワイナリーを開放する有名なイベントである。

○ここ数年開催されている、歩道・漫画フェスティバルは、クリエイティブで興味深い行事となっている。文化や、他のアートと組み合わせ、毎回テーマを掲げて開催されている。直近の開催テーマは、“日本文化”であった。



オーメ市にある日本庭園

13 政治の安定性

○現在のオーメ市長、アルベルト・ヴァノツリオ(Alberto Vanoglio)は、“情熱の街オーメ”の市民リスト(リスタ・チヴィカLista Civica)代表である。

2019年に市長に就任、2024年に再選。これにより長期計画の遂行が可能となり、市政が安定している。

○市議会は市長と12人の市議会議員
(8名の与党議員、4名の野党議員)から成る。



アルベルト・ヴァノツリオ市長

14 オーム市の市政と現在の取り組み

○オーム市行政の最大の懸念の一つは、気候変動に起因するリスクであり、ここ数年は頻繁に極端な大気現象がみられる。

たとえば、ゲリラ豪雨は山崩れや土砂崩れを容易に起こす。

地震はさほど頻繁に起こるわけではないが、雨による急流が土壌の浸食の要因となり、(市民生活にとって)望ましくない結果を引き起こすことになる。

○水路網の徹底した管理システムを設置し、渓流水路の流量調節や草刈りで管理を行うことによって、予測される被害や、自然災害を最小限にとどめる努力をしている。

○EU政策の元、環境保護と経費節減の双方の視点に立って、民間施設、公共施設のエネルギー効率化プロジェクトが始動した。

○交通網の安全整備もオーム市行政の中で非常に優先度の高い取り組みのひとつである。自動車、一般車両の速度を緩めるシステムも実用中。

その他、歩行者や自家用車を使用しない人々の安全性の向上のため、サークル状の歩道(歩行者用通路)を建設。

15 国内外の都市との交流成果

○オーメ市では特定の姉妹都市提携を結んでいる市町村はない

○市町村関連の公的機関とスポーツ交流や文化交流、社会交流、市民交流が行われている

○2023年5月、豪雨による川の氾濫の被害を受けたチェゼーナは、エミリア・ロマーニャ州の都市であるが、オーメ市はこの市民たちとの絆、そして団結を表明し、この街の再生復興の為に寄付金を募った。こうした寄付によって、二つの都市の間に親しみが生まれ、協定が結ばれることが決まった。

16 オーマ市の交通－利用しやすさに対応した構造

○オーマ市民の主要な交通手段は、必然的に自動車となり、短距離でも多く利用される。

○自転車専用道路や短い距離の定められた通路でのみ、自転車やスクーターの使用が奨励されている。

専用通路に関しては、週末に体を鍛える目的でオーマ市にサイクリングに訪れる人々にも使用される。オーマ市は小さな町なので都会の渋滞はほとんど見られない。また交通事故も少ない。

17 オーマと近郊都市を結ぶ交通経路

○オーマ市と近郊都市を結ぶ公共交通機関は、大型バスが整備されている。

オーマからブレーシアへの直行バスは、平日1時間ごと、休日は1日に2便、運行している。また、イゼオ湖に直行する大型バスもある。

○鉄道の最寄り駅は、パッシラーノ駅(Passirano)と、パデルノ駅(Paderno)がある。

より長距離移動が必要な場合には、ブレーシャ駅(Brescia)か、ロヴァート駅(Rovato)の利用が推奨される。

18 オーマ市内と国際空港を結ぶ交通経路

○オーメ市から最も近い国際空港は、カラヴァッジョ・ディ・ベルガモ・オリオ・アル・セリオ国際空港
オーメ市内と空港間を20分以内で移動可能。

○オーメからさほど遠くはない空港としてあげられるのは、ミラノにある国際空港(リナーテLinate空港・マルペンサMalpensa空港)である。